

図書館読み聞かせボランティアが選ぶ

0・1・2歳向け

おすすめ絵本

最終回

コロナ感染症対策のため、清瀬市立図書館の読み聞かせや、つどいの広場でのおはなしのじかんを中止にしていた代替として、令和2年11月より、読み聞かせボランティアの皆さんが選ぶおすすめの絵本を毎月紹介してきました。令和4年度よりおはなしのじかんを再開し、継続して実施する見込みのため、絵本の紹介は今回で最後にいたします。



たべるのだあれ？

すぎはら けいたろう



とびだすえほん

『たべるのだあれ？』

すぎはら けいたろう / 作 東京書店

バナナたべるのだあれ？はーいと手を挙げたのはおさるさん。おさるさんの口の中にはバナナが。口がもぐもぐと食べているように動かせる仕掛け絵本です。

りんごがコロコロリンコ



『りんごがコロコロリンコ』

三浦 太郎 / 作 講談社

ぞうさんが木からリンゴを取ろうとしたら、すべてコロコロ転がっていきます。色々な動物の背中を転がり続けて最後に私のところへ。リンゴが転がっていく様子と、言葉の面白さを楽しめます。

『はぐ』

佐々木 マキ / 作 福音館書店

浜辺で出会った動物たちがハグするお話です。らくだとしまうま、わにとペンギン、たことおじさん、ユニークな組み合わせが面白い。まだまだハグしにくい状況ですが、絵本の中で楽しんでください。

はぐ

佐々木マキ



『まんまるねんね』

黒井 健 / 作 ほるぷ出版

まんまるお月様が出る頃、にゃんこもわんこもくまのこも、まるくなってねんねします。ねんねしなーいと言っていたこちゃんも、お母さんに抱っこされてねんねします。

まんまるねんね



『さわさわもみじ』

東 直子 / さく

木内 達朗 / え くもん出版

もみじが風に飛ばされて、空に舞ったり、地面に落ちてじゅうたんになったり。さわさわという音と色とりどりの紅葉の絵で、秋を感じてください。



(令和4年10月発行)